

# 謹賀新年



大磯町長

中崎久雄

明けましておめでとうございます。

町民の皆さんにおかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は町政各般にわたり、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

2期目がスタートした昨年は、1期目で掲げた「町民のための町政」を念頭に、未来を見据えたまちづくりに向けての一步を踏み出す年となりました。

少子高齢化や人口減少の進行など、乗り越えていかなければならない大きな課題も多くありますが、「創志」「継志」この言葉を胸に、今まで進めてまいりました「健康」「教育」「子育て」「観光」などへの取組みを充実させ、実現していく1年とすべく、一つひとつ丁寧に、情熱をもち、次の世代に継げる大磯町の『創生』に取り組んでまいります。

昨年を振り返れば、6月に太平洋岸自転車道の起点となり、広域的な自転車ネットワークによる周遊を担う「ポートハウス」が新たな観光の拠

点としてオープンし、11月には、町の教育の新たな一歩として、基本理念を「いのち」「こころ」と掲げ、町全体で教育へ取り組む「教育大綱」を策定するなど、着実な一歩を踏み出すことができた年でありました。

今年は、踏み出したこの歩みを止めることなく、第2子以降の保育料の無料化や認定こども園「あおばと」の開設、食育指導の機会とするスクールランチ（中学校給食）などの子育て・教育施策をはじめ、交通空白地域を解消するための乗り合いタクシーの実証運行など、新たな事業にも積極的に取り組んでまいります。さらに、おあしす24健康おおいぞ事業やロコモティブシンドローム予防事業などの健康施策や、旧吉田茂邸の全面開園に併せて郷土資料館をリニューアルするなど、文化・観光の核づくりへの取組みも継続して進めてまいります。

結びに、本年が幸多き実りある年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。



大磯町議会議長

吉川重雄

新年あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。昨年の7月に議長に就任して6カ月が経過しました。先輩議長の後ろ姿を思い出しながら、議長の職責を懸命に務めあげています。

大磯町議会の憲法とも言える議会基本条例が施行して7年目を迎え、この条例に沿って毎年開催してきた議会報告会も、昨年11月で10回目となりました。新しい試みとして、参加された町民の皆様と議員とが4つのグループに分かれ、膝を交えて意見交換をし、最後に各グループから内容を公表し合うという取り組みを行いました。参加された町民の皆様から「来て良かった」「もっと時間が欲しい」などの声をお聞きすることができました。今後も、少しずつですが、議会活性化に向けて努力してまいります。

さて、私が議長になってから気になっていることがあります。それは「本会議での議員の一般質問の内容」です。他の議会と比較すると、本町議会では一般質問を行う議員の人数がずば抜けて多いことは、良いことであると思っています。しかし、問題は質問の中身なのです。質問にあたる議員の調査や勉強不足で「お願いごと」で終わっていることが多々見受けられます。

これからの少子高齢化社会に向かって、ますます地方自治体には、自分自身で生きていく力が強く求められます。だからこそ、各議員は行政に対し厳しい一般質問をすることが重要であり、大切なことなのです。議員が厳しい質問をすることにより、行政側がより緊張感を持って職務を行うことになり、それが町民サービスの向上、自治体力の強化につながると考えます。

一般質問は、議員の職責上の重要な務めであり、一般質問の中身が向上すれば、多くの町民の皆様が議会に目を向けてくれるでしょう。そのためには、議員一人ひとりが調査研究に取組み、資質向上に努め、より厳しい一般質問となるよう願います。

最後になりますが、町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。